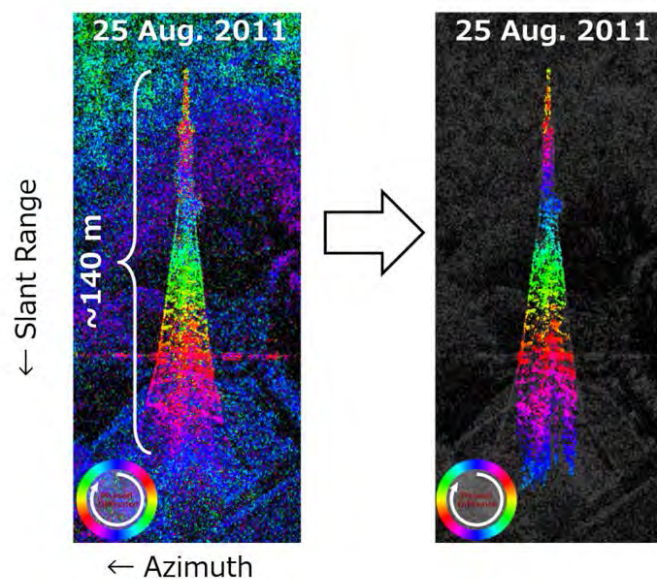
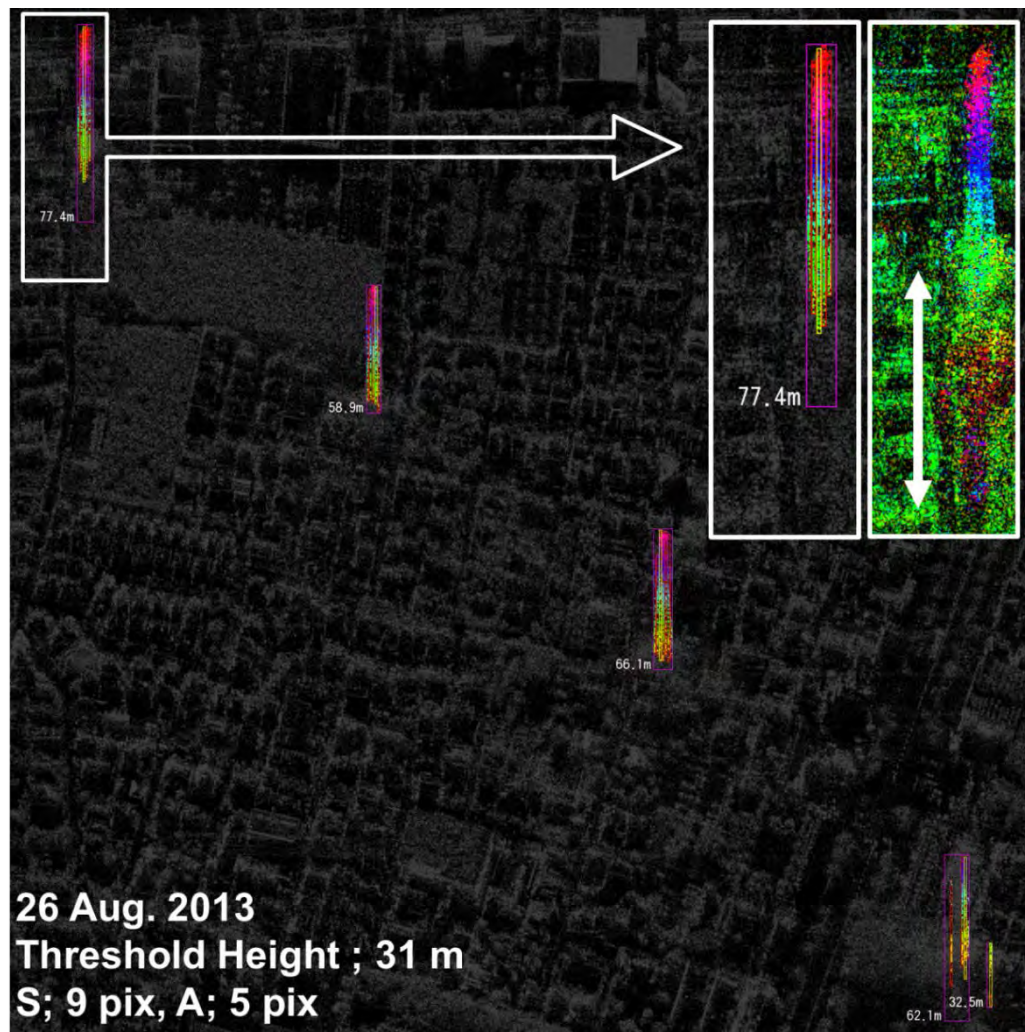


平常時での実利用に向けて

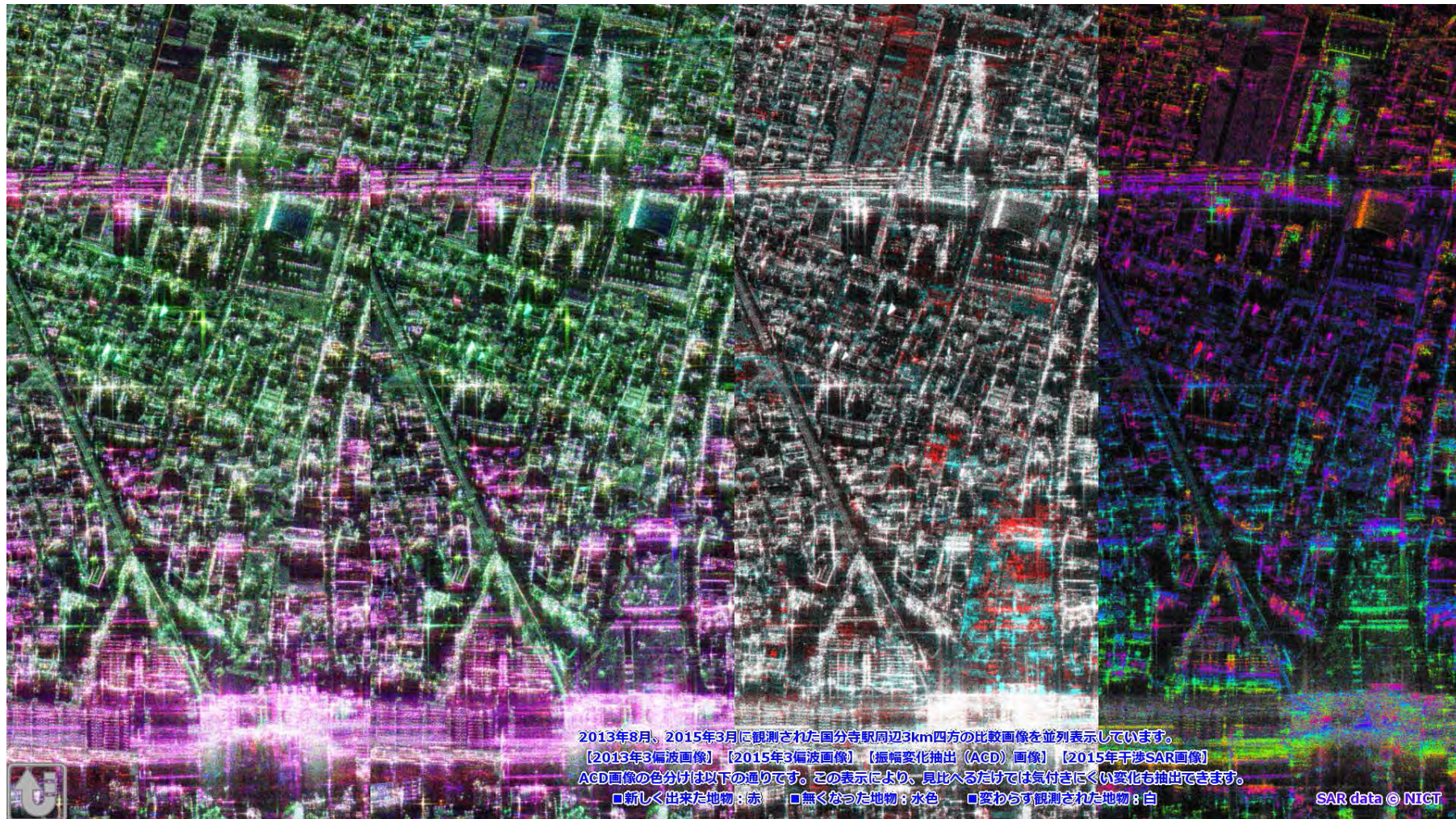
インターフェロメトリ機能の活用(例: 送電鉄塔の管理)



インターフェロメトリ画像から高層建築部
(鉄塔等)部分のみを切り出し、高さを推定する



都市域での画像差分の活用(例:JR国分寺駅北口再開発)



- 航空機SARの有する特徴・多様性
 - 天候・日射にかかわらず詳細な地表面画像を提供
 - 航空機により迅速でフレキシブルな観測が可能
 - 高い高度(8000m以上)からも高品質な(30cm分解能) 画像
 - 一度に5km以上の幅で観測が可能
 - 高次機能(ホラリメトリ、インターフェロメトリ)が利用可能
- 災害時の有効性は実証
 - 火山・地震災害での事例
 - 機上での処理による迅速なデータ提供(準リアルタイム)
 - 災害時だけでは装置・航空機の確保が難しい
→ 平常時における利用、普及を目指す
- 災害時と平常時での利用
 - 現況確認、変化抽出の点から応用範囲を拡大
 - 高次処理/データ処理による適用範囲の拡大
 - データの利用の促進

Pi-SAR/Pi-SAR2データ検索・自動処理による公開